

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

平成28年度担当者会の開催報告

平成28年11月21日（月）～22日（火）の2日間、広島県呉市にて、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 担当者会を開催しました。当日は約100名が参加し、今年度の活動報告や来年度の総会提案事項に向けた活動方針等について議論が行われました。

また、22日に行われました現地視察では、ジャパンマリンユナイテッド(株)の事業所見学や、呉港周遊クルーズ船に乗船して海上から呉の港を視察しました。



担当者会の様子

●開会

担当者会の開会にあたり、当協議会の幹事長である、高橋 正浩 広島市都市整備局みなと振興課長より、「本年5月31日に大分県中津市において開催された総会及び第10回瀬戸内海首長サミットでは、15名の首長様に参加いただき、『地域連携による瀬戸内海クルーズの活性化に向けて』をテーマに、地方創生に繋がる瀬戸内海のクルーズ船周遊ルートの可能性について建設的な議論をいただき、非常に有意義なものとなった。本日の4つの実行委員会（分科会）においても率直な意見を出していただくことによって、より中身の濃い議論が出来るものと期待している。」との開会挨拶をいただきました。



高橋 正浩
広島市都市整備局みなと振興課長



小村 和年 呉市長

次に、開催地を代表して、小村 和年 呉市長より、「ここ呉市は明治22年に海軍鎮守府が開庁し、東洋一と言われた海軍工廠が設置された。この様な中、日本人が日本人だけの手で初めて鉄の船を造ってから、わずか50年弱で戦艦大和を造った。その過程は他の町と違う特徴を持った歴史文化となり、今年の4月に日本遺産の認定を受けた。明日は、ジャパンマリンユナイテッド(株)の現場視察と聞いている。ここは海軍工廠の造船部門であり、戦艦大和を造ったドックが殆どそのまま残っている。

て、今は戦艦大和よりも100m長い363m、1万4000個積みのコンテナ船が作られている。また、湾内クルーズの特に海上自衛隊では潜水艦がたくさん見られる。皆様に視察して頂くということで大変嬉しく思う。我々は、瀬戸内海の恵みを次の世代に伝えていく責任を持っていると思うので盛んに議論をして頂きたい。」との歓迎の挨拶をいただきました。

続いて、事務局を代表して中国地方整備局港湾空港部 菅 高德 港湾物流企画室長より、「昨年6月に「広域観光周遊ルート」として「せとうち・海の道」が認定され、せとうちのブランド化のために本年春、瀬戸内観光推進機構が発足した。金融機関や民間企業も参加して瀬戸内ブランドの向上のための推進体制が整う（せとうちDMO）など様々な動きがある。このような中、当協議会として具体的にどのようなことに取り組むのか、取り組むべきなのかという観点からも議論して頂ければ幸いである。」との挨拶を行いました。



菅 高德 港湾物流企画室長

●平成28年度事業報告、分科会（実行委員会）及び全体会

平成28年度の事業報告として、これまでの会員活動への支援の申請状況と実施済み事業の報告を行いました。支援事業である「瀬戸内海活性化活動支援」、「瀬戸内海クルーズ推進活動支援」、「リフレッシュ瀬戸内全体拠点地環境関連行事等連携支援」、「瀬戸内・海の路利用振興事業」、「海ネットサポーター提案事業」、「防災対策推進活動支援」について、引き続き募集を行っていますので会員の皆様の積極的な活用をお願いします。来年度の総会は和歌山県和歌山市にて開催、担当者会については福岡県苅田町にて開催するので皆様の参加をお願いしたい、との説明が事務局よりありました。

続いて、昨年度の「海ネットイベントプランコンテスト」のイベント実施報告が行われました。最優秀賞「さあ釣りを始めよう！第2回ファミリー釣り大会 in 中島」松山市さんは「釣りを通じたイベントを続けることで海や島への来訪者が増える事を願っている」。優秀賞「紀州湯浅のギョギョっとお魚まつり」湯浅町さんは「今年は巡回水族館やヨットクルージングなど子供達に楽しんでもらえる新しい企画を用意した。また来年に向けて改善し新しい企画も考えて行きたい」。奨励賞「ふくやま港まつり2016」福山市さんは「普段は入ることが出来ない福山港国際コンテナターミナルの第2バースをコンテナで仕切

って特設会場を設けた。多くの方に港湾施設の存在や役割、重要性などを認識して頂けた」と報告をして頂きました。



最優秀賞 松山市さん



優秀賞 湯浅町さん



奨励賞 福山市さん

イベントプランコンテスト 実施報告の様子

また、今年度の「海ネットイベントプランコンテスト」については、広島市の1案のみの応募のため、第2次審査はプレゼン後に、どの賞が相応しいかの投票を行い、最優秀賞を獲得されました。受賞の挨拶として、広島市より「来年度で5回目の若いイベントだが、プレゼンを通して「うじな潮風フェスタ」の魅力が伝えることができたと思う。来年度、期待されているということと受け取っており、良いイベントとなるよう頑張りたい。」と本企画への意気込みを語っていただきました。

イベントプランコンテスト プレゼンの様子



広島市さん

引き続き、魅力検討委員会、環境事業委員会、情報発信委員会、防災委員会の4つの実行委員会に分かれての議論が行われました。

第2部の全体会では、各実行委員会での議論の内容報告、及び平成29年度の活動内容についての方向性が提示されました。瀬戸内海地域の振興・発展、協議会活動を推進していく上でも、各種支援事業について積極的な申請をお願いしたい、との説明が事務局よりありました。

実行委員会においても担当者から活発な意見や質問がなされ、大変有意義な担当者会となりました。なお、魅力検討委員会、環境事業委員会、情報発信委員会、防災委員会での各議論の内容は以下のとおりです。



第2部全体会の様子

●分科会

■魅力検討委員会

魅力検討委員会では、平成28年度の活動状況と平成29年度の活動方針に加え、「海ネットイベントプランコンテスト」に関して、応募が低調な状況にあったことから、制度の見直しも含めて議論を行いました。

「海ネットイベントプランコンテスト」の見直しに関しては、会員の皆様に事前にアンケートを行い、その結果をもとに議論したところ、今後の見直しの方向性について、①現在の審査方法の見直しやプレゼン・実施報告などの負担の軽減、②支援金の翌年度支出について、予算の確保が担保できる仕組みの検討、また、中止となった場合の取り扱いの追加、③イベント企画書の作成負担の軽減・記載マニュアルの作成などのご意見を頂きました。

今後、これらの意見を踏まえ事務局で改訂案を作成し、来年4月の幹事会にて改定案を提示し、来年6月の総会にて承認を頂いたうえで、平成29年度より実施する方針であることを確認しました。

また、「瀬戸内・海の路利用振興事業」と「海ネットサポーター提案事業」については、制度のイメージがわかりにくい、会員への周知不足であるといった意見を頂きましたので、今後、これまでに行った実施事例をわかりやすく紹介するなど、制度利用をより一層促進するための対策を講じることを確認しました。

最後に、平成29年度の活動方針として、「海ネットイベントプランコンテスト」で選ばれた事業を積極的に支援するとともに制度の見直しを行うこと、「瀬戸内・海の路利用振興事業」、「海ネットサポーター提案事業」により、会員間の連携による防災ネットワーク機能の強化を視野に入れた瀬戸内・海の路の利用振興を推進することについて、了承されました。



魅力検討委員会の様子

■環境事業委員会

これまで環境事業委員会は、「リフレッシュ瀬戸内」と「海の健康診断調査」を、環境事業委員会の骨格事業として継続して実施しており、その目的は、多くの人が参加できる海岸清掃活動を通じ、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の取り組みの理解を深めるものです。

今回の担当者会「環境事業分科会」では、来年、「リフレッシュ瀬戸内」25年目（四半世紀）の節目を迎え、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の基幹事業とも言えるものに成長した一方、余暇活動の嗜好や地域コミュニティの変化、熱中症対策等イベント主催者への要請の増大など、事業を取り巻く情勢は変化してきております。

また、リフレッシュ瀬戸内は例年、全体拠点地を1箇所、ブロック拠点地各1箇所をシンボルとして、瀬戸内沿岸の各地で清掃活動を実施しておりますが、最近では拠点地、中でも全体拠点地の選定が思うように進まない状況も発生してきております。

これらの状況変化を踏まえ、現在の「リフレッシュ瀬戸内」の実施方法と、参加者・主催者（会員）のニーズが乖離してきている状況があれば、25年目を契機とした実施方法の見直しを幹事会・総会に提案することも含め、分科会で検討いただきました。



環境事業委員会の様子

① 現行の実施方法の課題・対応方策の検討（全体拠点地の負担を軽減させる方策等）

・まず拠点地について、「全体拠点地で追加的に実施しなければならないことがわかりにくい。」「拠点地の役割や広報の仕方を明確に示してみてもは？」という、実施要領に関する課題や、「拠点地になって清掃参加者が増えれば実施費用も増加するため、財政部局への説明を要する。」という財政上の課題、また、自然海岸ではない海岸で清掃実施されている会員団体からは、「参加者も立地企業関係者が中心で、拠点地という一般の方がメインという印象で、（当該会員の実施海岸は拠点地に）向いていないと感じる。」という。ご意見も頂きました。

・観光地で日常的に清掃されていたり、海開き前など他の清掃が先に入っている場合など、もともと海岸が綺麗な状態でやりがいを感じて貰いにくいという課題、海岸に打ち上げられる藻類（アオサ等）について、焼却施設から受入に難色を示されているといった具体的課題もありました。

② リフレッシュ瀬戸内の実施方法・支援方法の変換提案等

・「担当者が災害業務も担当しており、海岸清掃と（出水期等）災害対応の時期と重なる。」「リフレッシュ瀬戸内を実施していない会員団体からは実施時期の縛りがなければ良い。」等、開催時期についてのご意見を頂きました。

これら議論頂いた結果を受け、リフレッシュ瀬戸内の開催期間等、事業計画に関する部分は、環境事業委員会所属会員と相談の上、来年度の実施方針に反映、幹事会・総会へお諮りすると共に、実施上の課題については、実施要領の記載拡充等を行って参ります。

■情報発信委員会

情報発信委員会では、『海ネット HP 閲覧者の増加に向けた取り組み』として、より多くの方に海ネットに対して興味をもっていただける方法を検討しました。

○主な現状の報告として、

1. アクセス数は昨年と比較して約 3 割減少している（上半期のみと比較）。
2. 昨年までは当番制にして各会員に HP 更新をお願いしていたが、担当者への負担から今年は控えている。
3. 特定の会員による更新しかなされていない。

○問題点として、

- HP の更新に必要な ID と PW を担当者間で引き継いでおらず更新可能なことを現在の担当者は知らなかった。
- HP のトップページに更新情報を掲載しておらず、全体的に分かりづらい。

上記問題点に対して、個別 ID と PW が各会員専用設定されていることと、それによって HP の更新が可能な事を各会員に向けて毎年周知することを確認しました。

また、事務局である九州地方整備局ではセキュリティーの関係から更新作業やアクセス解析が出来なくなっていることを報告し、次年度において、整備局とは別の海ネット専用のネット環境を構築し、HP の管理ができるよう予算要求をすることを確認しました。



情報発信委員会の様子

■防災委員会

防災委員会では、平成 28 年度の取り組みについて状況報告を行い、平成 29 年度の事業計画について活発な議論が行われました。

状況報告では、①情報伝達訓練による実効性の確保 ②防災対策推進活動支援事業 ③会員拡大による組織強化の実施計画について成果報告を行いました。

- ① については、熊本地震の影響の長期化により中止決定を報告するとともに、これまでの情報伝達方法が経年の訓練の成果より、会員数の増加に追従できていないこと、手続きや様式が煩雑であることの指摘から、見直しが必要であることを報告しました。
- ② については、現時点で利用申請がないこと。引き続き積極的な利用を呼びかける必要があることを報告しました。
- ③ については、協定の実災害における活動実績がないため未加入会員への PR が難しい状況に陥っていること。が課題となっており、活動が停滞している現況を報告しました。

この様な状況を踏まえて、会員が活用しやすい協定の運用の見直しが重要な課題であることを報告



防災委員会の様子

しました。

以上のことから、平成 29 年度の取り組み方針としては、協定第 12 条に規定する実効性の確保を重点的施策として取り組むこととしました。

分科会では、以下の 2 点について重点的に取り組むことを提案し、議論を行ないました。

議論の概要は次の通りです。

① 災害時に会員が協定を活用しやすい環境整備の検討

本協定が最も有効なのは、海的路（海上輸送）を活用した物資輸送であり、船舶を所有しない会員が災害時に用船が可能とする方法や制度の検討が必要となります。

海上輸送手段の確保について船舶を所有しない大半の会員が船舶を利用しやすい環境整備をすることで、活動実績ができ、会員数の増加にもつながります。

② 瀬戸内・海的路ネットワークのホームページ（以下、HP という。）の活用

物資輸送支援の円滑な実施のため被災会員と応援会員の情報共有ツールとして、従来の電話・FAX に代わり HP を利用します。

HP の活用は、会員全員と同時に情報共有が可能とし、担当者同士の直接調整することにより、タイムリーな情報共有が可能となり、様式や連絡行程の簡素化にもつながります。一方で、HP は便利なツールではありますが、本当に被災会員の省力化に繋がるのか今後検証が必要です。地震時の通信の脆弱性（フリーズや不通の対応）等に対応が可能なのか。正常に機能しているのか幹事による確認も必要ではとの意見も付されました。

会員数は飛躍的に増加し 70 会員となり、海的路ネットワークの拠点数も増加し災害時の支援の輪がより充実できる条件は整ってきています。

本協定は、これまで大規模な地震等の災害の発生があつたのに関わらず、未だ一度も協定を発動した実績がなく、ネットワーク充実の効果が十分に発揮できているとは言いがたい状況となっています。その要因として、前述の①船舶利用を可能とする制度等が整備されていないこと。

②情報共有方法も会員規模に適したものでなく、実効性が必ずしも確保されているとは言えないこと。等の協定の運用面での改善すべき課題を抽出しました。平成 29 年度の活動方針として、協定の運用を抜本的に見直し、会員にとって活用が容易で実効性の高い仕組み作りに向けて取り組んでいくことで了承されました。

●現地視察

翌日は、ジャパンマリンユナイテッド(株)の事業所見学の後、周遊クルーズ船「くれない5」に乗船して海上から呉の港を視察しました。

ジャパンマリンユナイテッド(株)では、船艦「大和」の建造ドック跡や、完成間近の 14,000TEU 積コンテナ船、資料館を見学しました。（場内での写真撮影は禁止）

呉港クルージングでは、先ほど場内から見学したジャパンマリンユナイテッド(株)のコンテナ船を海上から見る事が出来ました。「くれない5」の船員さんによる音戸ノ瀬戸の歴史や、海上自衛隊の艦船や潜水艦の説明を聞きながら約 1 時間の海上視察を行いました。

ジャパンマリンユナイテッド(株)の事業所見学



事業所内移動中の説明風景



貴重な歴史資料が展示された資料館前で記念撮影

呉港クルージング



建造中の 14,000TEU 積コンテナ船を見学



音戸ノ瀬戸通過の様子